

< 小規模多機能型居宅介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

6

1

2

1

2

11

9

2

合計 30

事業所番号	4691200010
法人名	有限会社 ネバーランド
事業所名	グループホーム よいやんせ
訪問調査日	平成20年4月5日
評価確定日	平成20年7月1日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4691200010		
法人名	有限会社 ネバーランド		
事業所名	グループホーム よいやんせ		
所在地	鹿児島県霧島市溝辺町崎森2759-1 (電話) 099-64-1188		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年4月5日	評価確定日	平成20年7月1日

【情報提供票より】(20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算	5.55人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	1日 250 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		要介護3	1 名
要介護3	2 名	要介護4		要介護5	4 名
要介護5	1 名	要支援2		要支援1	名
年齢	平均 86.5 歳	最低 60 歳	最高 105 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳永医院 国立病院機構南九州病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くにたくさんの名所、旧跡があり、農、の空間が広がっている静かな集落の中に開設されているホームである。グループホームは、小規模多機能施設と隣接しており、運営者宅や、職員住宅があり、常に入居者と関わりを持つ事ができる環境の中にある。利用者が地域の中で家族との絆と今までの生活を大切に、寄り添い触れ合いながら生活できるケアに取り組んでいる。職員は本人と向き合う時間を多く持ち本人を中心にしたケアに努めている。職員の努力により利用者に笑顔が戻り安心して暮らしている。利用者の笑顔とありがとうの言葉に職員は通じ合っている事を確信し、業務遂行への意欲の源としている。運営者、職員の真摯な取り組み姿勢により家族や地域の人々との信頼回復が深まり地域密着型サービスの実践とますますの充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の手当てに関する改善課題については毎月1~2回行われている災害訓練の際に、事例を設けて研修を実施し職員の意識向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について管理者、職員は話し合い意義を理解し、評価に前向きに取り組んでいる。評価結果を踏まえて改善に向けて検討や実践につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、住民代表、行政職員、民生委員、医師居宅事業所など多くの参加を得て定期的に開催されている。系列の小規模多機能ホーム者と合同で行われている。ホームの啓発のための看板設置等意見が出されている。分かりやすい場所に看板設置をする等実施しサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や運営推進会議などで意見や要望が出されている。意見を出しやすい雰囲気作りが心掛けており、出された要望などはミーティングで話し合い対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会や商工会に加入しており地域行事や商工会活動に参加している。また、子供会との交流やボランティア訪問、資源ごみの分別の手伝い、物産館へ出かけ地元住民と交流するなど多くの人々と交流をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割、地域で暮らし続けるための理念を作成している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念を日々のケアの中で生かすように具体的に指示している。また職員採用時には理念を伝えて共有に努め、日々のケアに実践している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や商工会に加入しており地域行事に参加している。また、子供会との交流やボランティア訪問、資源ごみ回収の手伝いを通しての交流や、物産館へ出かけて地域住民と交流するなど多くの人々と交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について管理者・職員は話し合い、意義を理解し、評価に前向きに取り組んでいる。評価結果を踏まえて改善に向けて検討や実践につなげている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、住民代表、行政民生委員、医師など多くの参加を得て定期的に行われている。系列の小規模多機能ホームと合同で行われている。ホームの啓発のための看板設置など意見が出されている。分かりやすい場所に看板を設置するなど実践し、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡協議会に加入しており、毎月1回連絡会に参加している。ホームの取り組み内容など報告し情報交換を行い関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や訪問時、個々の連絡帳、電話などで日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで意見や要望が出されている。意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけており、出された要望などはミーティングで話し合い対応に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係を重要視したケアを心がけている。やむをえない異動の場合には職員にホームの理念やケアの考え方をしっかり指導し不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。毎日1回勉強会を行い、外部研修は段階に応じた研修に参加している。研修報告をし、職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流や相互訪問など積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には病院や居宅に面会に行き、利用者の生活歴や思いなど十分に聞いている。また見学や体験をしてもらい、信頼関係を築き不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で職員は問いかけたり、行動や表情を観察して思いや意向の把握に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者寄り添い心のケアに努めている。一人ひとりの生活歴の話しを聞き理解を深めるようにしている。自宅訪問時に見せる本人の笑顔とありがとうの言葉に職員は元気をもらいながら日々を共にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに主治医、職員などの意見を活かした本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、評価結果を見直しに、活かしている。定期的な見直しと状態変化の際には、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族などの状況に応じて、病院受診、自宅訪問外泊など必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の事例では重度化や終末期に対して、家族、医師を交え話し合いはなされている。ホームが支援できる方向性を統一した指針は定められていない。		重度化や終末期の対応指針を定め方針の共有が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床、就寝、入浴やレクリエーションなどその人の生活リズムに留意しながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、通所利用者と一緒に下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗いなどできる事をしてもらいながら職員も同席の上、楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は身体状況により本人の希望する支援に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、生花、ゲートボール、草取りなど得意な事に力を発揮してもらったり、自宅訪問や外での飲茶など気晴らしのできる事を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物、物産館に出かけている。またドライブや地域の行事に参加するなど閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら見守り、安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練、防災訓練を行っている。毎月1～2回事例を設けて訓練をしている。利用者、職員も参加して行われており、災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記録し一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保に努めている。身体状況に合わせてミキサー食やトロミなど取り入れている。栄養バランスを考えた献立になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、換気も適時に行なわれており、臭いもない。手すりの位置を付け替えるなど配慮が行き届いている。ホールの間仕切りの建具やタンス、ソファ、季節行事の飾り付けなど家庭的で生活感あふれる共用空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、コタツ、椅子、カーペット、電気ストーブなどそれぞれなじみの物が持ち込まれている。また居室入口に好みの色ののれんをかけて目印とするなど工夫し居心地良く過ごせる居室作りとなっている。		